

緩和医療学

【目的】

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面した患者とその家族に対して、クオリティオブライフを改善するアプローチである。がんをはじめ、末期心不全など生命を脅かす疾患において緩和ケアの役割は重要である。患者やその家族に対し外来、入院、在宅と切れ目のない緩和ケアを提供するために、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアなどの体制を整備することが求められている。

広島大学病院には、緩和ケアチーム、緩和ケア外来があり、通院・入院中の患者、家族の身体的・精神的サポート、患者・家族・医療者を含めたコミュニケーションのサポートなどを担っている。加えて、広島大学病院のようながん診療連携拠点病院の緩和ケアチームには、がん診療連携拠点病院や一般病院の緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアをつなぐ役割も求められている。

緩和医療学の臨床実習Ⅱでは、おもにがん治療における緩和ケアについて理解し、包括的アセスメントと症状緩和の実際、患者や家族への接し方や、多職種連携を学ぶことを目的とする。2週間の実習は広島大学病院で行い、主に緩和ケアチームの診察、回診に同行し、患者の診察を見学することと、e-learningによる学習を組み合わせた形式で行う。機会があれば、在宅療養支援診療所の訪問診療同行や院外スタッフを交えた退院時の多職種カンファレンスなどで院外との連携を学ぶことができる。

さらに、各人が実習で知りたいこと、勉強したいことなど希望があれば相談に応じる。ただし、当院には緩和ケア病棟が併設されていないため、緩和ケア病棟での実習は行っていない。

【実習の実際と到達目標】

- 1) 全人的アプローチについて学ぶ。
- 2) 身体的苦痛の緩和方法について学ぶ。
- 3) ガイドラインに基づいたがん性疼痛の緩和について学ぶ。
- 4) 患者や家族の心理社会的苦痛について学ぶ。
- 5) 多職種での連携の重要性とチーム医療について学ぶ。

【週間スケジュール】

e-learning、病棟レポート作成は自習、それ以外は8時55分(午後の回診は13時)に病棟5Fの緩和ケア室集合。

1週目

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
9:00～ 11:30	病棟診療同行	e-learning (レポート)	カンファレンス 病棟診療同行	病棟診療同行	病棟診療同行
13:00～ 17:00	e-learning (レポート)	回診同行	e-learning (レポート)	e-learning (レポート)	指定患者レポート 作成

2週目

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
9:00～ 11:30	病棟診療同行	外来見学	カンファレンス	病棟診療同行	病棟診療同行
13:00～ 17:00	e-learning (レポート)	回診同行	在宅診療所で訪 問診療同行	e-learning (レポート)	e-learning (レポート)

午後に退院支援カンファレンスが不定期で開催される場合がある。その場合はカンファレンスへの参加が追加される。

評価

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価(出席、実習への参加態度、ディスカッションへの参加態度など)	46
指定患者レポート(12点/1件) 1件	12
e-learning レポート(6点/1件) 7件	42

諸注意など

実習に際しては臨床に携わる医療者として適切な身なりを整えること。

レポートの作成要綱は以下の通り。

・e-learning レポート

視聴当日にメールで r-nacamura@hiroshima-u.ac.jp 中村まで提出する。

・指定患者レポート

第一週月曜日に症例を指定する。

以下の内容について、1000字程度で記載し、作成指定日の翌開院日に中村へプリントして手渡しで提出する。

* 患者名は記載せず、年齢は何十代と記載すること。

略病歴(今までのがんの治療歴など、緩和ケアに関連するものを簡潔に記載する。)

以下の各種苦痛症状とその評価、対応(緩和ケアセンターが直接かかわる記載だけでなく、他科の医師や看護師、MSW、リハビリスタッフなど多職種の記録を参照すること。)

- 身体症状
- 精神症状
- 社会的問題
- スピリチュアルな苦痛

・在宅療養支援診療所の訪問診療同行

連携する在宅療養支援診療所の訪問診療に同行する。先方とスケジュールが合わない場合は中止がありうる。同行させていただける場合は、受け入れ施設に失礼のないよう、意欲的な参加態度と節度を保った行動を心がけること。

担当教員

中村 隆治 (講師)

倉田 明子 (講師)

連絡先: 中村 隆治 メールアドレス: r-nacamura@hiroshima-u.ac.jp